

地域貢献活動支援事業学生の取組(9団体) 詳細版

滝田研究室×三輪研究室

横浜橋通商店街地域遺産発掘プロジェクト

【課題認識】

横浜橋通商店街は、各店舗の経営者の高齢化とそれに伴う後継者不足、更には、近隣住民の25%以上が60歳以上の高齢者であるため、現在の賑わいも将来的に約束されているとは言い難い。

達成目標

- 横浜橋通商店街の歴史的資源の保存
- 商店街及び近隣の小学校による「まちづくりオーラルヒストリー」の実施が可能となるよう、「まちづくりオーラルヒストリー」のノウハウのツール化
- 「まちづくりオーラルヒストリー」とは、住民から地域に関連した記憶を引き出し、その情報から地域特有の特徴を住民とともに見出す手法のこと

※横浜橋通り商店街があらゆる組織とつながり、地域における拠点の一つとなるためのツールとして調査やワークショップを活用する

【具体的な取組】

商店街の高齢店主を対象にインタビューを行い、テキスト・データ化していく。また、そのデータをもとに、商店街や近隣の小学校を対象としたワークショップを開催し、インタビューの情報を共有していく。

ヨコハマ起業戦略コース鈴木ゼミ

安全安心のまちを目指す地域コミュニティ再生支援事業

【課題認識】

黄金町地区は、近年、街の様子が改善されつつあるが、街を支えている町内会員の高齢化が顕著となっている。20-40歳代の若い世代の地域住民が街に関心を持ち、積極的に町内活動に参加していくようにしていかなければならない。

課題と現状・事業目的

対象地域: 黄金町～日ノ出町 間

- ~2005
・違法小規模飲食店が立ち並ぶ
・ハイバイ作戦 決行

- 2006~
・大量の空き店舗の再利用
・地域コミュニティの再生

- 2013
・町内会員の高齢化
・安心安全なまちづくり

- ① 地域住民間の交流機会を増やすことによるコミュニティ再生のきっかけづくり
- ② 大学による地域貢献事業の取り組みを多くの人に周知すること

【具体的な取組】光を使って、街に明るさを取り入れることにより、犯罪の抑制や治安の改善を図る。小学校や警察署等とも連携し、歩行者が安心して歩くことのできる光の質を検討していく。この活動を通して、小学生の保護者たちも巻き込み、街への関心を高めさせ、街の安全について考えるきっかけを作る。

金沢研究会

金沢区に対する学生街らしいまちづくり提案と研究調査活動

【課題認識】

金沢区には、横浜市立大学と関東学院大学の2大学が存在しているにも関わらず、学生の金沢区における消費活動や滞在時間はそれほど多くなく、学生と地域の結びつきが強いとは言えない状況である。

今年度の活動目標

- 「学生と地域がもっとつながるまちへ」

活動実施予定

- アンケート調査
- 学生対象まちあるき
- 情報発信
- 事例調査・フィールドワーク・講演会
- イベント開催
- 区内の他団体との交流・連携

【具体的な取組】金沢区と学生の結びつきを強めるために、学生街らしいまちづくりや、学生の地域貢献の在り方等について、研究・調査を実施するのに加え、学生向けに金沢区に関する情報発信活動を行っていく。

KEEP (Kihara "Education of Eating" Project)

「食」から見える世界

【課題認識】

近年は、コンビニエンスストアやファストフードの成長に伴い、利便性が向上し、食事に対するスタイルが多様化している。その中で、「食」がいかにか大切なかを考える機会はほとんどなくなってきている。

本事業の目的および目標

目的

- ・「食」について考える場を提供する
- ・小麦を通して世界の環境・経済・文化・歴史について学び、深く考える

目標

- ・一年の活動をまとめて形に残すことで食に対する児童およびその家族の意識を昨年度より高める
- ・他の小学校、市民へ活動を広げる足掛かりとする

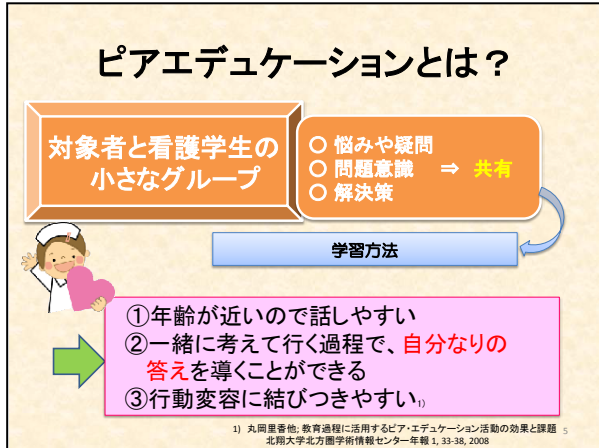
【具体的な取組】舞岡小学校5年生に対し、体験学習や調べ学習を行う。また、年度末に「コムギフェスティバル2014」を実施し、本取組について、舞岡小学校以外の小学校等に対して周知を図る。

横浜市立大学子宮頸がん予防啓発グループ

横浜市内における子宮頸がん予防啓発のための出前教室

【課題認識】

子宮頸がん発症が若年化する一方、ワクチン実施率や検診の受診率がなかなか向上しない現状がある。まだHPV感染リスクの低い10-20代前半の女性が、子宮頸がんは予防できるがんであることを知り、予防策の必要性を理解することが将来の発症率低下に向けて不可欠である。



【具体的な取組】

金沢区・青葉区を中心に、小中学生及びその保護者、高校生・大学生を対象に出前教室を行い、検診等の大切さ、自分の大切な人の健康を考えることの意義を、大学生が等身大に伝える。

金沢自然塾

金沢自然塾の自然体験活動による若者の社会適応力向上

【課題認識】

複雑で多岐にわたる課題を有する現代の都市社会への適応困難な青少年に対して様々な自然体験を通し、支援を行う。身近な地域における様々な組織や団体との連携により、人的資源や地域資源を活用しながら、対象者の人間性の涵養を行う。



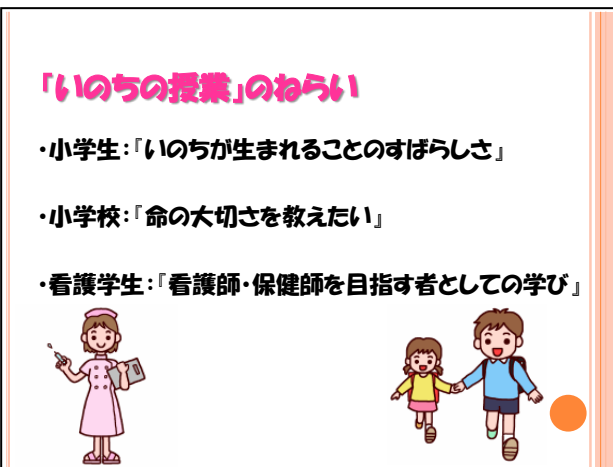
【具体的な取組】不登校や引きこもり等の青少年を対象に、横浜での自然体験や農業体験をさせ、自然に触れ合い、人間性を高めて社会参加を促す活動を実施する。

看護学科いのちの授業グループ

いのちの授業訪問事業

【課題認識】

医学・看護学の観点から、命の大切さを教えて欲しいという小学校・地域からの要望に応えると同時に、日頃地域の人々との交流が不足している私たち学生にとって、子どもや学校の先生と触れ合うことは、将来医療従事者となる上で、自分自身の成長に繋がると考える。



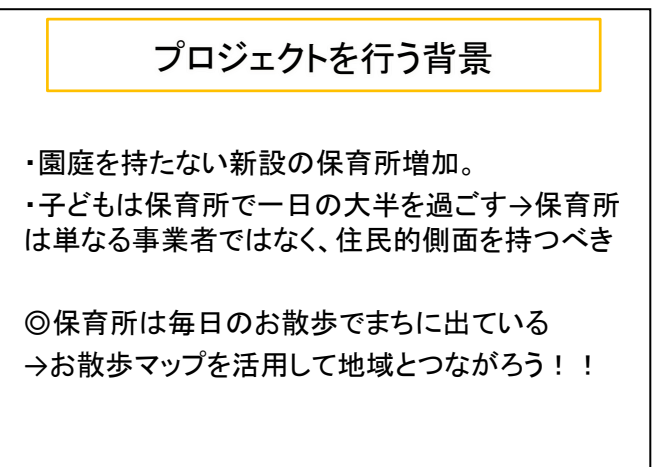
【具体的な取組】「命の大切さ」を小中学生に感じ取ってもらうために、看護学科生が、生命誕生までのプロセスを教える授業を行う。

ヨコハマ起業戦略コース三輪ゼミ

保育所×地域 つながり力アップ・マップワークショッププロジェクト

【課題認識】

近年、保育施設の待機児童数の増加や、社会の保育ニーズの多様化を受けて、園庭を持たない保育園が増加している。また、多くの保育施設は、地域に頻繁に出る機会があるにも関わらず、地域の人との交流がほとんどないことがゼミ活動を通して明らかになった。



【具体的な取組】保育施設関係者と地域住民・保護者・子どもと一緒にまちあるきやマップづくりをするワークショップを実施することで、それぞれが把握している地域資源の情報を共有し、つながりを強めていく。

【課題認識】

医療崩壊の現状は、極めて深刻な状態にある。医療崩壊を加速させている原因は、“医療を提供する医療者や病院の数”と、“医療を享受する患者の数”の不均衡、つまり、“供給”と“需要”のアンバランスにあると考えられる。

今年度の目標

訪問授業の実施・テキスト作成

広報活動

昨年度の活動

校長会での周知

広く“市民の方”にも
本事業を知ってもらおう

授業の再評価

昨年度の活動

フィードバックの集積
(小中学生の声)現場の教員の方の
意見も取り入れる

【具体的な取組】

将来の医療の適正利用を広めるため、医学生という立場から、横浜市域内の小中学生に対して医療の仕組みを教えるモデル授業を行う。